

令和 7 年度 事業計画書

1、定款に規定する事業に則り次の事項を行う

公1-1 都市防災・美化に関する調査・研究

(1) テーマ「都市の防災・美化のための樹木の倒伏・折損可能性の計量的調査研究」

(2) 調査・研究の背景と目的

都市の緑化にあたって公園・緑地や街路樹の整備がその多くを担っているが、樹木の管理についての課題も垣間見えてきた。

東京都で行われている街路樹診断に際し、幹の腐朽空洞率が倒伏・折損の可能性評価で重要な指標のひとつとなっている。しかし、腐朽空洞率が高いだけで倒伏・折損危険性が高まるわけではない。また、推定誤差が腐朽空洞率問題のもう一つの課題としてあげられる。推定値にはかなりの誤差があることも念頭に置く必要がある。

欧米ではデータ検証が行われた結果、腐朽空洞率の高さだけでは樹木が伐採・更新されてはおらず、日本でも令和3年度の東京都街路樹診断等マニュアルで判断基準は変更された。

ただ、都道街路樹の管理現場では街路樹の機器診断で腐朽空洞率50%以上になると、倒伏・折損を懸念する意識は依然強く残っている。ましてや国道事務所やその他多くの地方自治体では腐朽空洞率50%以上の診断結果で伐採されている実態がある。

今回の調査・研究では、ドイツやフランスで行われている引張試験を参考に、幹の腐朽空洞率50%以上の個体の支持力・強度を計測のうえ、倒伏・折損を左右する要因を明確にする。これによって、適切な評価が必要なことを明らかにし、防災・美化にも寄与する高木を安全性を確保しつつ保全することを促したい。

海外での検証法なども参考にして、腐朽空洞率が高くても一律に倒伏・折損危険性が高まるわけではないことを示すことによって、腐朽空洞率を重視している現状の街路樹管理の現場での伐採の判断基準の改善を促し、より効果的な樹木の保全・管理体制構築につなげることを目的とする。

(3) 調査・研究の内容及び方法

(1) 内容

1. 樹木の倒伏・折損に関わる既往データの整理
2. 幹の推定腐朽空洞率50%以上の樹木の引張試験

(2) 方法

引張試験によって支持力・強度が不十分と評価された樹木の要因の検討・考察を行う。
樹木が倒伏・折損する背景には、限られた植栽基盤や掘削工事等による根系切断の他、ベッコウタケによる根株腐朽、樹勢・樹形活力度の低さ、幹の開孔空洞が大きく巻き込みも不十分、等の要因が考えられる。本研究では、そうした要因を抱えた樹木も引張試験の対象として、倒伏・折損を左右する要因を検討・考察する。

(4) (公財)都市防災美化協会に調査・研究委員会を設置し、調査・研究を推進する。

① 調査・研究委員会の構成

(委員は予定、50音順に表示)

<統括>	・西口敏之	公益財団法人都市防災美化協会 理事長
<委員長>	・藤井英二郎	公益財団法人都市防災美化協会 理事
<委員>	・石井匡志	一級造園施工管理技士の会幹事長
	・上杉俊和	公益財団法人都市防災美化協会 理事
	・大島 渡	(一社)街路樹診断協会事務局長
	・木下 剛	千葉大学大学院園芸学研究院教授
	・妹島哲生	公益財団法人都市防災美化協会 常務理事
	・當内 匡	国際アーボリカルチャー協会理事
	・中島 宏	公益財団法人都市防災美化協会 顧問
	・野上一志	(一社)街路樹診断協会常任理事
	・細岡 晃	公益財団法人都市防災美化協会 理事

- ・細野哲央 (一社)地域緑花技術普及協会代表理事
- ・本間雄二 千葉大学環境園芸フィールド科学研究センター技官
- ・山下得男 (一社)街路樹診断協会副会長
- ・吉岡賢人 (株)吉岡緑地代表取締役
- ・和田幸子 公益財団法人都市防災美化協会

- ＜事務局＞
- ・吉岡賢人 (株)吉岡緑地代表取締役
 - ・和田幸子 公益財団法人都市防災美化協会

その他必要に応じて防災、都市計画、環境等の専門家からメンバーの追加を行う

- ② 調査・研究委員会の運営
- 「調査・研究委員会」は3回実施
- 第1回委員会 (2025年 4月頃)
 - 第2回委員会 (2025年10月頃)
 - 第3回委員会 (2026年 2月頃)

(5) 調査・研究期間

2025年4月より2026年2月までとする

(6) 業務委託契約の内容

- ① 業務委託契約の種類及び名称
「都市の防災・美化のための樹木の倒伏・折損可能性の計量的調査研究」
- ② 業務委託期間 2025年4月から2026年2月までの間。
- ③ 契約締結日 2025年4月
- ④ 委託先 藤井英二郎

(7) 調査・研究報告書の体裁 A4判 100～150ページ

公1ー2 都市防災・美化に関する図書・印刷物の発行

- (1) ① 不特定多数の都民が当協会の行う調査・研究の成果品を活用することによって、防災・美化対策の一助になるよう出版する
- ② 国や地方公共団体の防災、環境の保全、保護及び整備等の担当者、関係者及び大学等の研究者に役立てて頂くよう出版する
- (2) 出版物
「都市の防災・美化のための樹木の倒伏・折損可能性の計量的調査研究」
- (3) 出版部数 600部程度

公1ー3 都市防災・美化に関する普及・啓発

- (1) 都民及び団体等への都市防災・美化に関する普及・啓発活動の一環として都市防災・美化に関わる大学の研究者、行政、研究機関及び図書館等に出版物を無償頒布する
- (2) 当協会の出版物を活用して、防災・美化対策に関連する講演会、協議会等で公表したり、2026年度にシンポジウム・セミナーを開催する等によって普及・啓発を図る。